平成 28 年度電源立地地域対策交付金の活用
（農業試験分析機器等の整備）

電源立地地域対策交付金は、発電用施設の周辺地域における公共用施設の整備や企業の産業関連技術の振興のための事業に対して交付金を交付することで、発電用施設の整備に係る地元の理解促進等を図ることを目的としています。

平成 28 年度はこの交付金を活用して、農林水産研究所、果樹研究センター、みかん研究所、久万高原町駐在において次の８つの機器を導入しました。

低温種子庫（農林水産研究所）

主要農作物の安定生産を行うには、品種が持つ遺伝的特性を維持することが重要です。このため、県下で必要な水稲・麦等の種子の生産を行い、**長期冷蔵保存**できる本機器を整備し、**優良で均一な種子の安定供給**を図ります。

低温種子庫本体（左：外観、右：内部）

気象観測装置（農林水産研究所）

気象データの収集と解析をする装置です。

試験研究ほ場の気温や日射量、降水量等の気象データを収集することにより、気象要因による試験結果への影響の評価を行い、ＩＣＴや温暖化に対応する栽培管理技術の開発が可能となります。

気象観測装置（温度計、日射計、雨量計ほか）

サンプル保存冷凍装置（農林水産研究所）

県産農産物の出荷前**残留農薬分析調査のための農産物サンプルを冷凍保存**します。農薬の分解を防ぐためには冷凍する必要があります。約 100 種類の農産物を冷凍保存し、食の安全・安心に活用しています。

サンプル保存冷凍装置本体

作物体・土壌栄養診断装置（果樹研究センター）

植物等の必須元素、微量要素を分析する装置で、原子吸光装置と分光光度計装置で構成されます。

元素は、欠乏すると植物の生育が停止するため、作付前の土壌診断は重要です。さらに肥料試験において、施肥量に対する土壌、植物体への吸収量の測定に活用し、養分の欠乏、過剰症を判断し、安心安全な作物の安定生産につなげます。

原子吸光装置

分光光度計装置

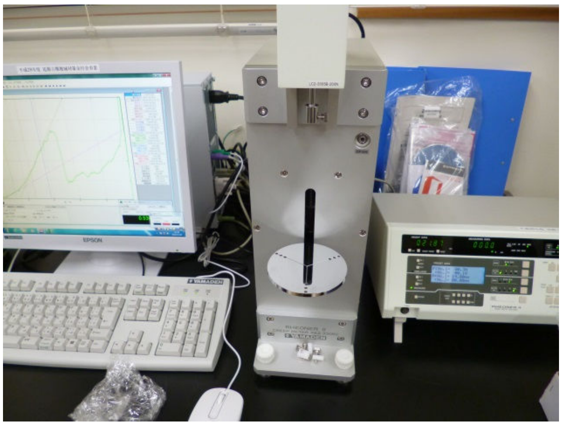
人工気象器（果樹研究センター）

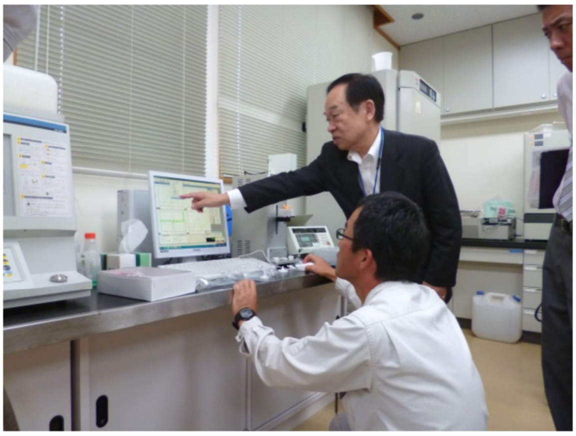
密閉空間内で照明、温度、湿度条件をコントロールし、植物を健全に生育させる機器です。本機器で温度、湿度を制御することで植物等の生育に最適な環境を再現できることから、年間を通じて試験が可能となり、育種効率が向上することが期待されます。

人工気象器（左：外観、右：内部）

果肉硬度測定装置（みかん研究所）

果実の硬さを測定する機器です。愛媛県オリジナル品種である愛媛果試第 28 号（紅まどんな）は「ゼリーのような食感」、甘平は「シャキッとした食感」と表現されますが、本装置の導入により、果肉の柔らかさ、粘り等、果実硬度の食感を客観的に評価・数値化でき、有望品種の早期選抜や高食味(食感)となる栽培・貯蔵条件を見出すことが可能となります。



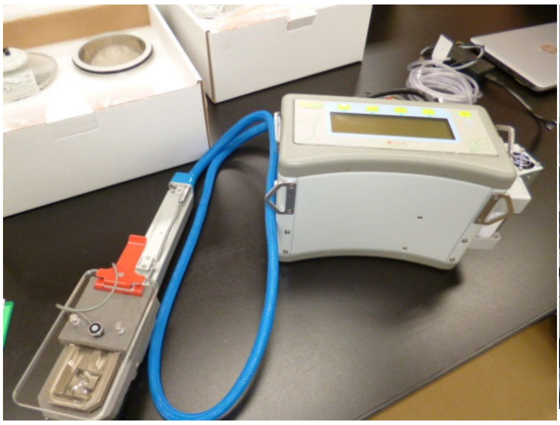
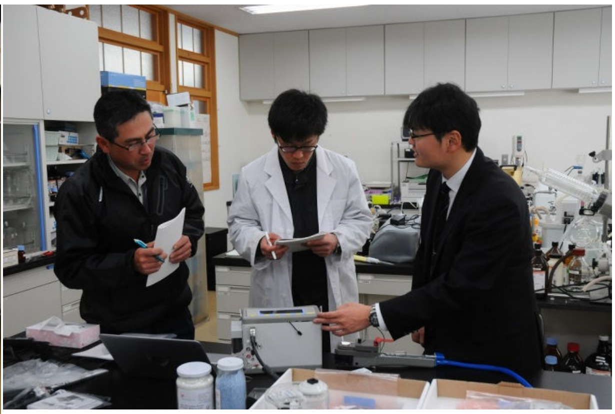


果肉硬度測定装置本体

光合成蒸散測定装置（みかん研究所）

栽培条件による**光合成・蒸散**の違いを調査し、高品質果実生産技術を開発するために使用します。かんきつの光合成・蒸散は、樹の生長、果実の発育に大きな役割を果たします。近年、温暖化が進展する中、良食味、高品質かんきつの安定生産技術を確立するためには、気象変動による光合成・蒸散量の変化や、それらと連動する果実品質や樹体の生長との関係を明らかにする必要があります。

本装置の導入により、光合成・蒸散量の生理学的な知見を明らかにするとともに、高品質安定生産を可能とする技術開発につながります。

光合成蒸散測定装置本体

バックホー（久万高原町駐在）

新技術栽培実証のため、野菜（トマト、ピーマン、白ネギ）栽培圃場の**土壌を反転・破砕し、土壌改良**に使用します。より高品質で安定した生産のためには**深耕による排水性の改善**等土壌改良が必要です。このため、本機械を利用した実証試験で生産現場に適した技術をＰＲ・普及することで、生産者の所得向上につなげることが期待されます。

バックホー本体